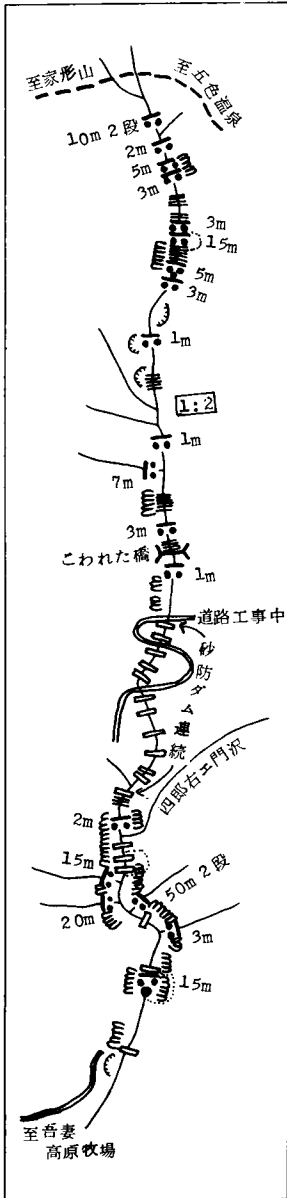


高倉沢 (仮称)

一九七八年七月十二日

◆天気(晴)

前川右岸に高倉山につき上げる三本の沢がある。いずれも距離の割には高度差があり興味をそそられる。はじめにまず高倉沢(仮称)。八時三五分身仕度をととのえて出発。すぐにF1。ここに右岸から合流するルンゼがある。簡単に直登して先に進む。F2も直登するがホルドが細かく意外に手こずった。この上流はナメの連続だ。フリクションのよくきく快適なところだ。九時二〇分二俣。水量の多い左俣に入る。コケが多くなり典型的



蟹ヶ沢 (作図:)

蟹ヶ沢

一九七九年六月十七日

◆天気(晴)

四郎右エ門沢に入る渡辺・宍戸両君と共に吾妻高原牧場を越えて林道終点、砂防ダムまで車で送ってもらう。七時二〇分通行開始。ヤマウドのいっぱい生えた沢筋を

な源流の様相だ。一番右の沢に入ったがすぐ水流もなくなる。ギンゴ沢の下降を予定していたので左にヤブをこいで稜線に出る。九時五五分。(記)

(タイム)

出合八・三五―二俣九・二〇―沢終了・尾根九・五五

少し進むとF1一五に着く。すぐ上の砂防ダムと共に左岸を高捲く。右からの支沢をすぎ砂防ダムを越えて少しくと廊下状となり、最奥に二個の砂防ダムがある。左岸に試掘跡かと思われる坑道が残っていて、内部は鉄分が沈着して鐘乳洞のような感じになっている。左岸を登ろうとするが、岩がボロボロで極めて危険。結局ザイルの先にカラビナをつけて上にほうり上げ、樹木からませて、それを頼りに捲く。じきに四郎右エ門沢出合。渡辺・穴戸両君とわかれる。

今までのV字状に深くえぐれた沢筋と変わって、明るい平凡な砂防ダムの連続する沢筋がしばらく続く。何のための道路なのか、建設工事が行われている。工事現場を過ぎると冷たくきれいな水に変わった。平凡な沢筋をなおも登る。一時間程で二俣。右沢に入る。一休みしながらヤマウドをザックいっぱいとり、なおも登る。「平凡な沢だ。ウドだけが収穫だ」と話していたら、がぜん滝が出てきた。まず三層と五層の連続する滝を直登。そして一五層の滝に出る。ここは左岸の高捲きだ。その上流にも更に三層、五層と続きいずれも直登。最後の一〇層二段滝ではシャワークライミングまで楽しむ。一二時四

五分登山道に出て蟹ヶ沢の廻行を終える。

(記)

(タイム)

出合七・二〇―四郎右エ門沢出合九・〇五―二俣一
一・〇〇―沢終了・登山道一二・四五―家形ヒュッテ一
三・〇五

四郎右エ門沢

一九七九年六月十七日

◆天気(晴)

菅野君に蟹ヶ沢出合・砂防ダムまで送ってもらう。二俣まで西・浅野パーティと共に廻行。最初の滝一五層とすぐ上の砂防ダムを一緒に左岸から捲く。左岸にはヤマウドが群生していた。少し行くと左岸より滝となって支流が入り込んでいた。砂防ダムを越えたとすぐ左岸より五〇層・二段の滝となって再び支流が入り込んでいた。右岸からの支流を見送ってすぐ砂防ダムが三つ連続して現われた。左岸をゴボー抜きにして高捲く。すぐに二俣。西・浅野パーティに別れて右俣の四郎右エ門沢に入る。